

# Newsletter

*Institute for Legal Studies*

*Kanagawa University*

No.29

December, 2022

## 巻 頭 言

## 法学部 Global Perspective Program(GPP)について

近江 美保

2021年度に開始した法学部の Global Perspective Program (GPP) について、ご紹介させていただきたい。GPPの企画は、2019年度終盤の将来構想委員会での「国際系プログラム」を作るようにという指示により、具体化に向けて動き出した。それ以前も、法学部から交換留学する学生を増やしたいという話があり、学生たちの様子をみながら検討しようということになっていたのだが、急遽、2021年度からのカリキュラム改変の一環として、「国際系」PBL科目を立ち上げることになったのである。その後は、石井梨紗子先生をはじめ、法学部内の数名の先生方のご協力をいただきながら、GPPのプログラムを練り上げることとなった。GPPという名称もこのような相談の中から、大川千寿先生のご発案により誕生したものである。

GPPは、国際的な知識や感覚と語学力を身につけ、グローバルに活躍できる法曹、ビジネスパーソン、公務員になりたいという学生を応援することを目的としており、特定のコースに紐づけたものではない。これは、学生たちが将来どのような分野で仕事をするとともに、いわゆる「国際感覚」や基本的な語学力（英語力）を身につけることは必須であり、法学部で何を中心に学ぼうとも、そのような力を身につけて卒業し、活躍の場を広げてほしいと考えたからである。また、GPPでは、学生に交換留学を義務づけているわけではない。留学というハードルを設け

るより、留学も自然に視野に入ってくるようなプログラムでありたいと考えている。

プログラムの具体的な内容は、GPP用の「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、「GPP特修」をGPP演習科目として位置づけ、これに英語のアカデミック・ライティング（「政治学特講Ⅱ・Ⅲ」として開講）、GPPが指定する法学部専門科目、既存の「法学政治学英語特講」を組み合わせで構成されている。GPPでの学びを就活にも生かしてもらいたいとの思いから、これらのカテゴリーから一定以上の単位を取得すると、認定証を発行するという仕組みも作った。

実際のGPP科目は、2021年度後期に近江が担当した「基礎演習Ⅰ」からスタートした。学部 Growth Hubを通じてGPPに登録した学生の中から、さらにGPP用の「基礎演習Ⅰ」の履修を希望する学生を募り、志望動機や留学希望の有無などを参考にして、履修者を選考した。履修者には積極的に発言や質問をする学生が多く、学生たちも互いに刺激を受けている様子で、充実した授業になった。学期の後半で使用した英文資料には苦勞する様子も見られたが、よくわからないながらも英語のホームページを自分で調べ、それについて質問に来るなど、一歩前に踏み出してみることに挑戦してくれたように思

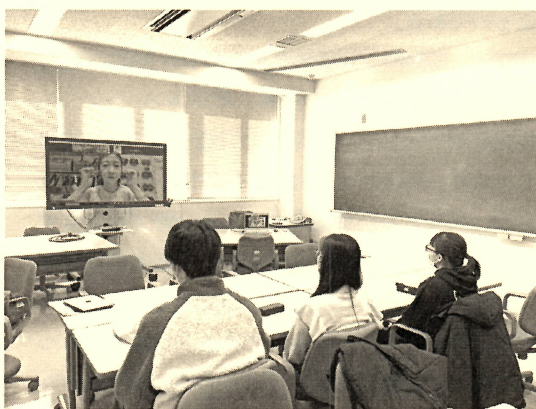


う。

本年度4月には、GPP担当特任講師として三浦純子先生が着任され、GPPが本格的に始動した。前期にGPP用「基礎演習Ⅱ」とアカデミック・ライティングを実施、後期にはPBL科目としての「GPP特修」がスタートした。「GPP特修」は石井先生と三浦先生が共同で担当され、グローバルに活躍されているゲストスピーカーのお話を伺いながら、その内容について事前・事後に学習を深めるという授業である。2022年度後期は、シャンティ国際ボランティア（SVA）事業サポート課海外事業担当の長内淑江さん、元UNHCR駐日代表の滝澤三郎先生（東洋英和女学院大学名誉教授）、NPO法人SALASUSU(カンボジア発のファッションブランド) COO・組織人材開発部門シニアマネージャーの須藤菜々子さんという素晴らしいゲストにご協力いただいた。

さて、GPPは学部のプログラムであって、法学研究所とは関係ないと思われるかもしれないが、すでにGPP特修のゲストによる授業と国際人権センターの講演会をタイアップさせ、貴重なゲストのお話をより多くの学生に公開するという試みも進めている。国際人権センターの活動に学生を巻き込んでいくという意味でも、双方で協力しながらGPPも国際人権センターの活動も発展させていきたいと考えている。

（法学部教授）



上から、長内淑江さん（10月6日）、滝澤三郎先生（10月27日）、須藤菜々子さん（12月8日）のゲスト講義の様子